2019年度 決算総括

2020年5月29日

古河電池株式会社

代表取締役社長　小野 眞一

© 2020 Furukawa Battery

Contents

01 19年度 決算総括

02 20年度について

03 補足資料

© 2020 Furukawa Battery

01 19年度 決算総括

© 2020 Furukawa Battery

19年度決算 ポイント

事業環境	● 鉛価格が低く推移（18年度 29.8万円/t ⇒ 19年度 27.5万円/t） ● 日本国内でクラウドサービスが急速に伸び、データセンタ市場が活況 ● 2019年 タイ四輪自動車生産台数： 201万3,710台（前年比７%減、5年ぶりの減少） ● 2019年 インドネシア四輪自動車生産台数： 128万6,848台（前年比4.2%減、2015年以来の前年比減）

連結業績	産業用のデータセンター向けの販売好調、タイでの自動車用電池の販売好調で増収。営業利益は、産業・タイの販売好調に加え、原材料である鉛価格が低く推移したこと及びインドネシアFIBMの前年度比改善が寄与し増益。			
	売上高　：	**64,486百万円**	**前年度比**	**1.4%（885百万円）増**
	営業利益：	**3,293百万円**	**前年度比**	**17.5%（491百万円）増**

© 2020 Furukawa Battery

19年度 連結業績ハイライト

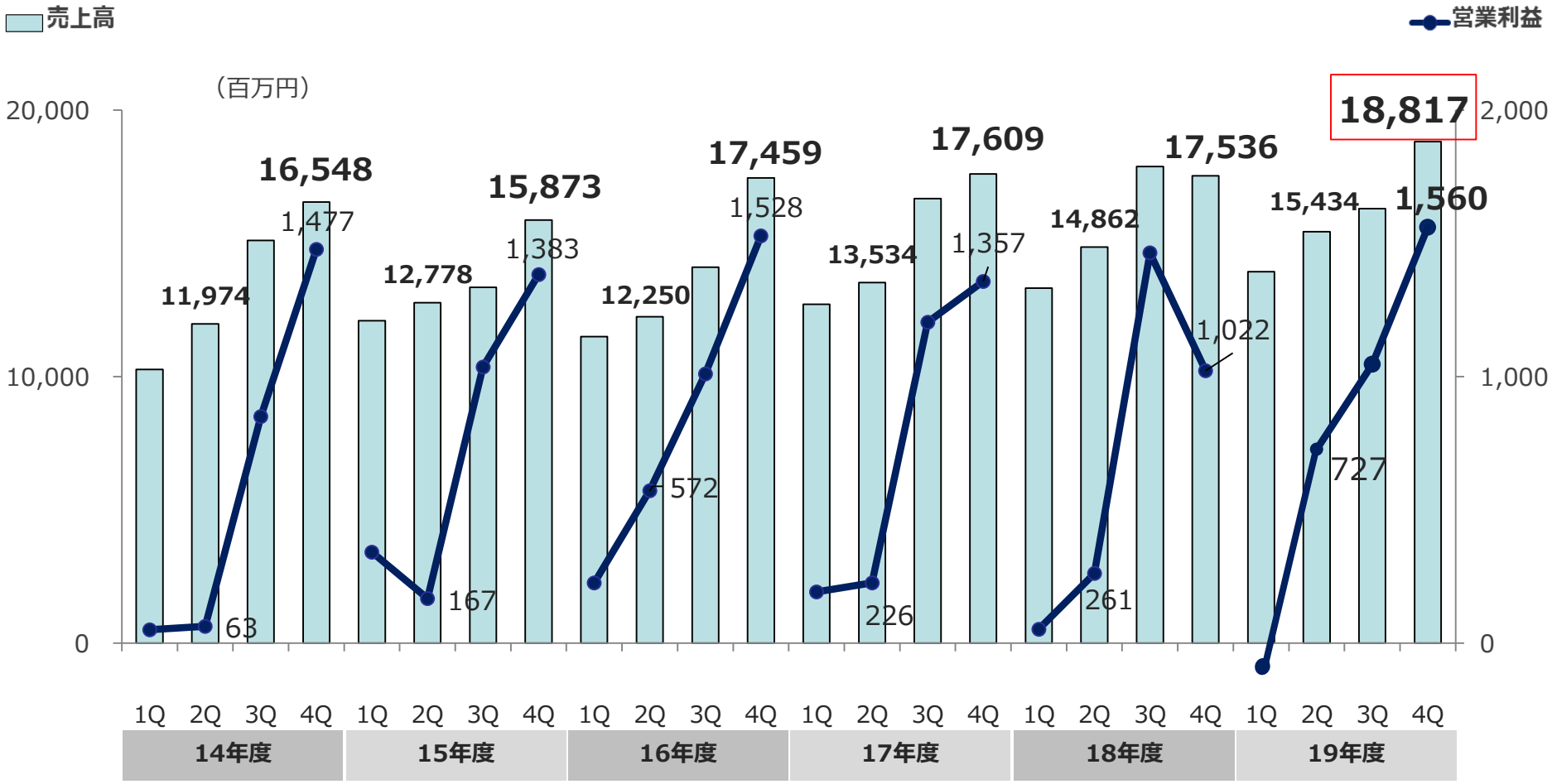
- 売上高　：計画比未達も前年度比では増加し、**過去最高を達成**
- 営業利益　：計画比若干の未達も前年度比では大幅に増加
- 経常利益　：計画比・前年度比ともに増加
- 当期純利益　：投資有価証券評価損計上により計画比・前年度比ともに未達
- 海外売上高比率：タイSFCとインドネシアFIBMの増収により前年度比増

	18年度実績	19年度通期計画（2019.5公表）	19年度実績	増減率（対前年度）	増減率（対計画）
売上高	63,600百万円	66,500百万円	64,486百万円	+1.4%	△3.0%
営業利益	2,801百万円	3,300百万円	3,293百万円	+17.5%	△0.2%
経常利益	2,698百万円	3,100百万円	3,237百万円	+20.0%	+4.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,267百万円	2,400百万円	2,238百万円	△1.3%	△6.7%
海外売上高比率	35.5%	—	37.0%	+1.5pt	—

© 2020 Furukawa Battery

売上高・営業利益の推移_四半期

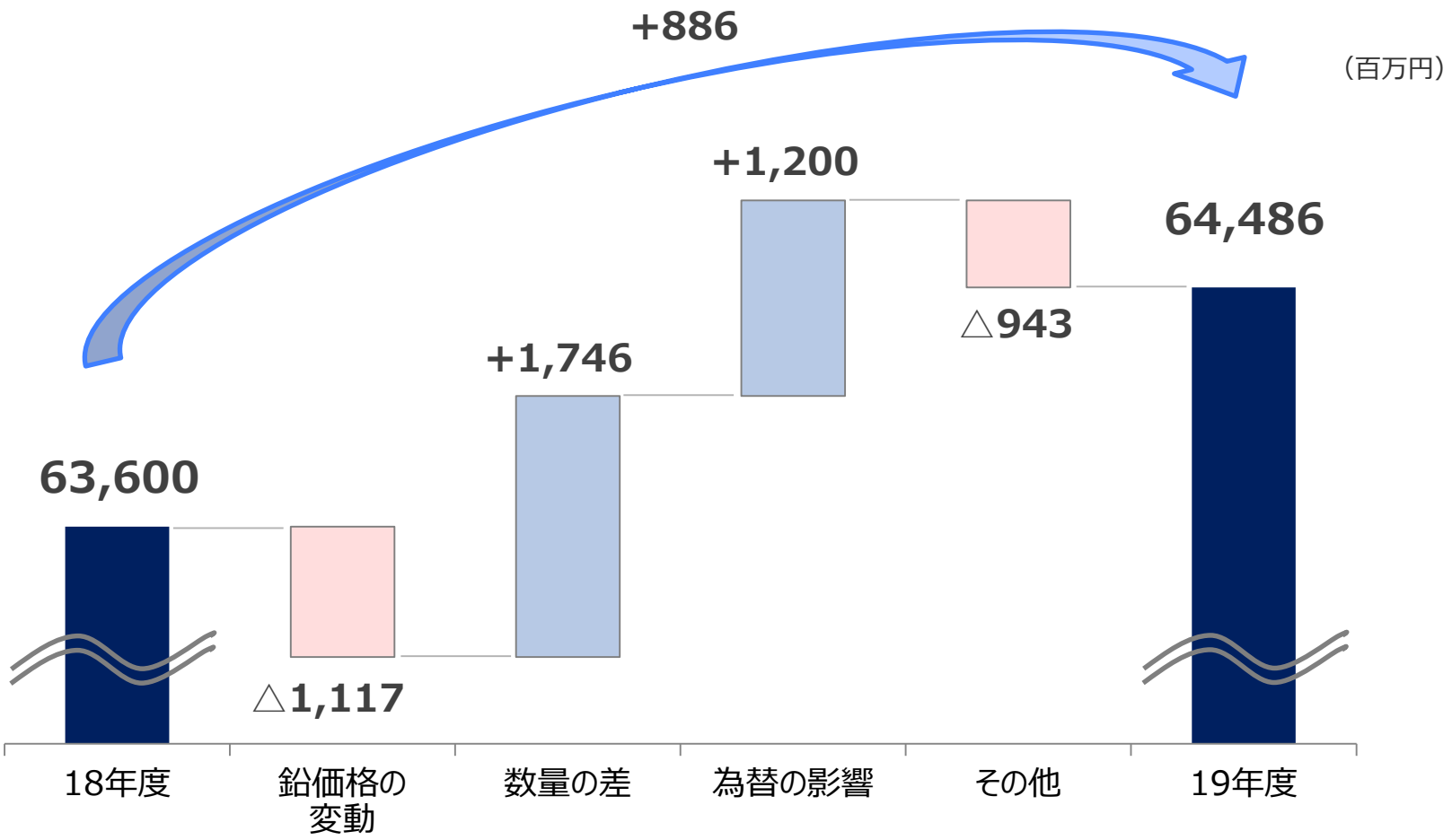
- 下期偏重のトレンドは継続
- 19年度4Q(1-3月)の売上高188億円は3か月実績としては過去最高、 営業利益15.6億円は過去2番目に良い結果



© 2020 Furukawa Battery

売上高 増減分析

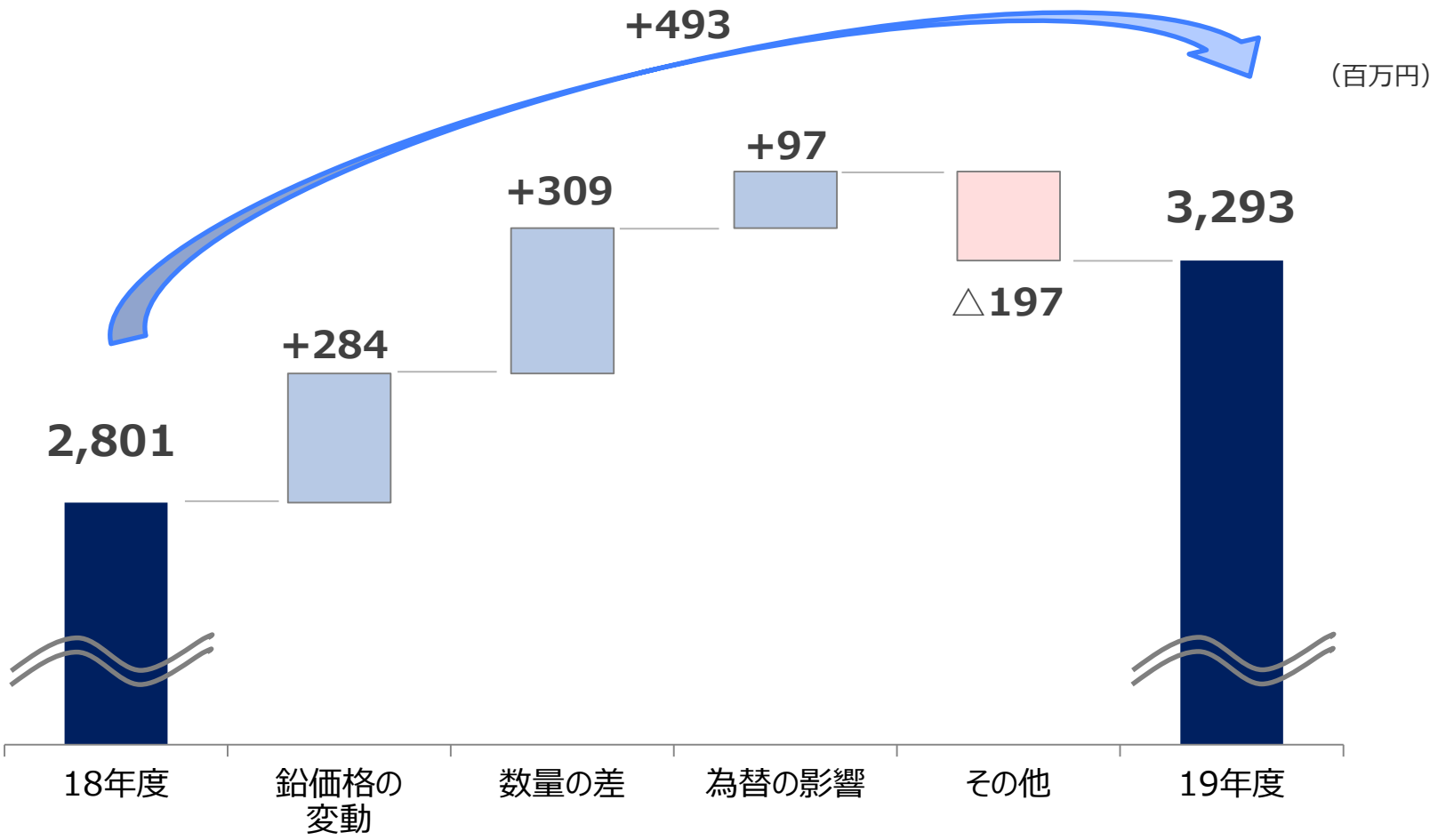
■ 19年度は産業事業が拡大。タイSFCの販売好調も寄与し増収



© 2020 Furukawa Battery

営業利益 増減分析

■ 産業とタイSFCの販売好調に加え、主要原材料の鉛価格が低めに推移したことや原価改善効果、インドネシアFIBM改善などにより増益

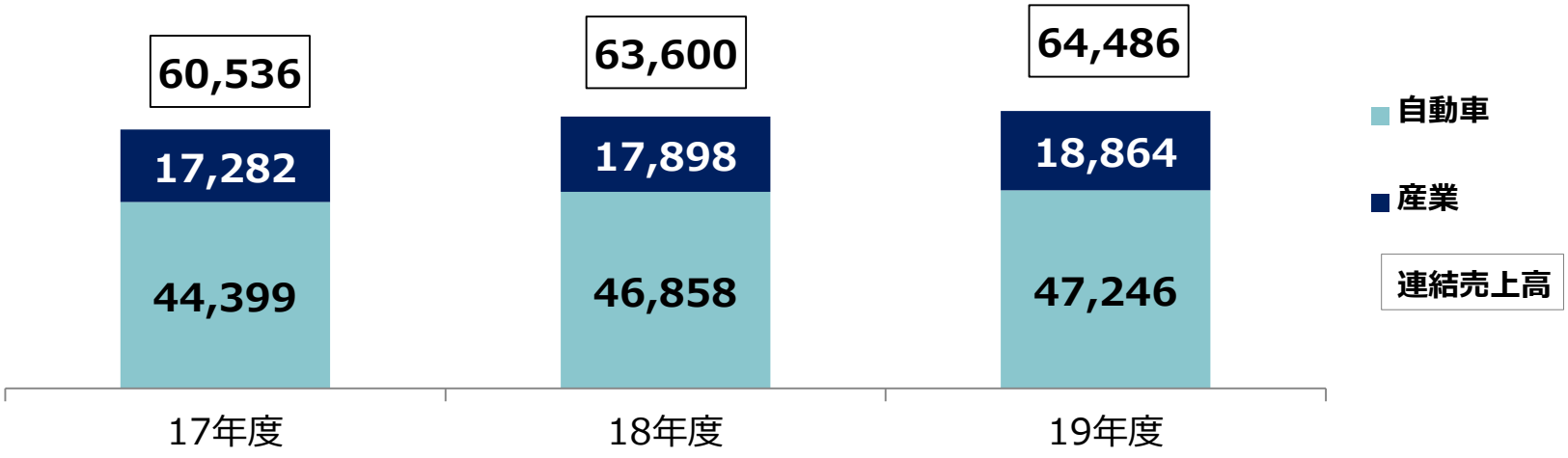


© 2020 Furukawa Battery

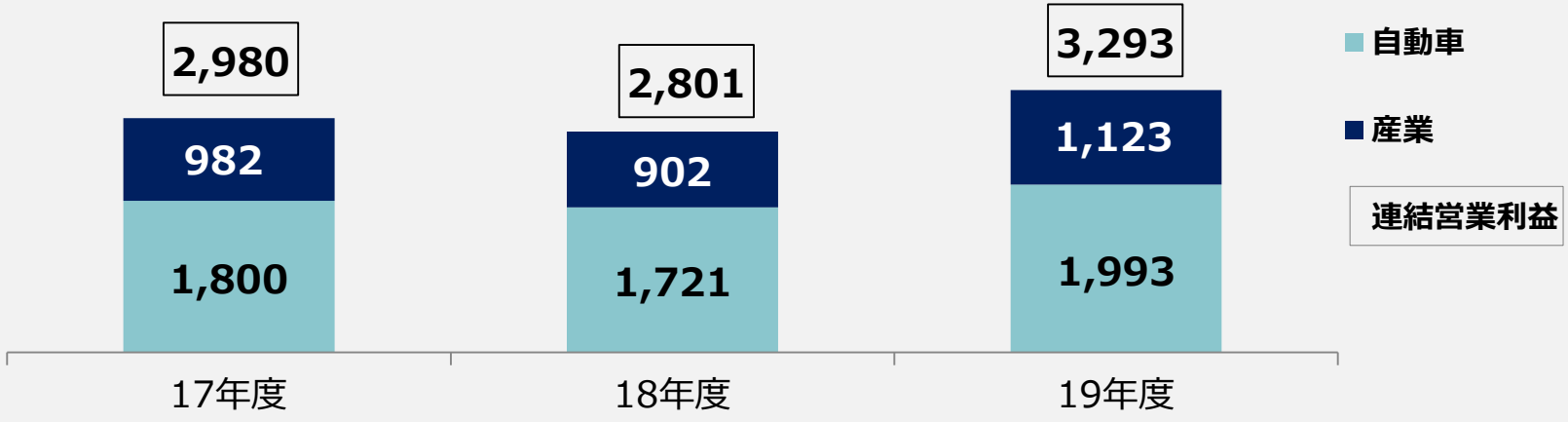
連結決算概況_セグメント別

◆セグメント別 売上高

（百万円）



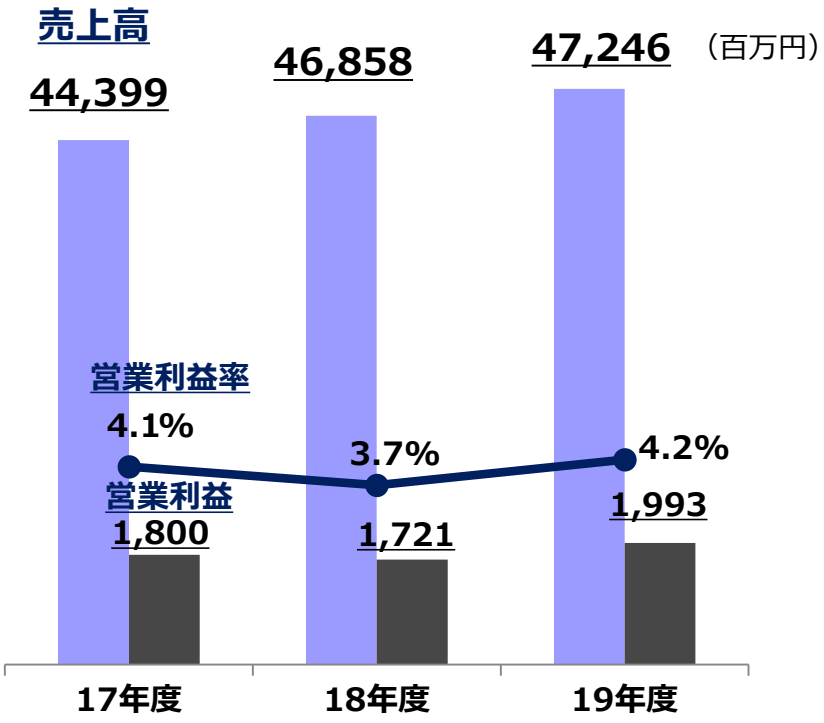
◆セグメント別　営業利益



© 2020 Furukawa Battery

自動車セグメント 決算概況

自動車 セグメント	鉛価格下落に伴う製品価格下落をタイSFC販売好調がカバーし若干の増収。主要原材料の鉛価格下落や原価改善効果、インドネシアFIBMの改善などにより増益			
	売上高 ：	47,246百万円	前年度比	0.8%（387百万円）増
	営業利益：	1,993百万円	前年度比	15.8%（271百万円）増

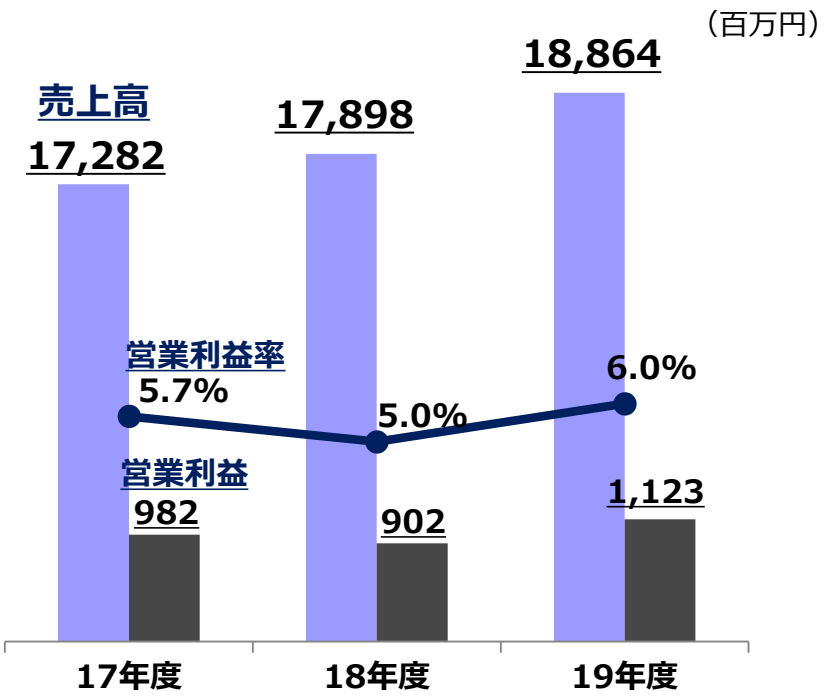


- **日本：**
  ISS車用バッテリーやEN規格バッテリーの販売数量増加の一方、補機バッテリーの取り換え需要ピークアウト、新車向け減少、暖冬の影響などで減収減益
- **インドネシアFIBM：**
  売上高は前年度比 +40%弱
- **タイSFC：**
  売上高は前年度比 +数%
  営業利益は+10%強

© 2020 Furukawa Battery

産業セグメント 決算概況

産業セグメント	新設・更新物件向けの販売好調により増収、大幅に増益			
	売上高 ：	18,864百万円	前年度比	5.4%（966百万円）増
	営業利益：	1,123百万円	前年度比	24.5%（221百万円）増



- 市場は、インフラ需要増により拡大基調
- **データセンター**市場では、**クラウドサービス**が急伸しており、成長の牽引役となっている

国内データセンター建設投資 *1
2018：**924億円**
2019：1,245億円（前年比+34.7%）
2023：**1,412億円**（2018比+52.8%）

国内パブリッククラウドサービス市場規模 *2
2019：**8,778億円**　（前年比＋22.9%）
2020：**1兆円超**
2024：**2兆円超**

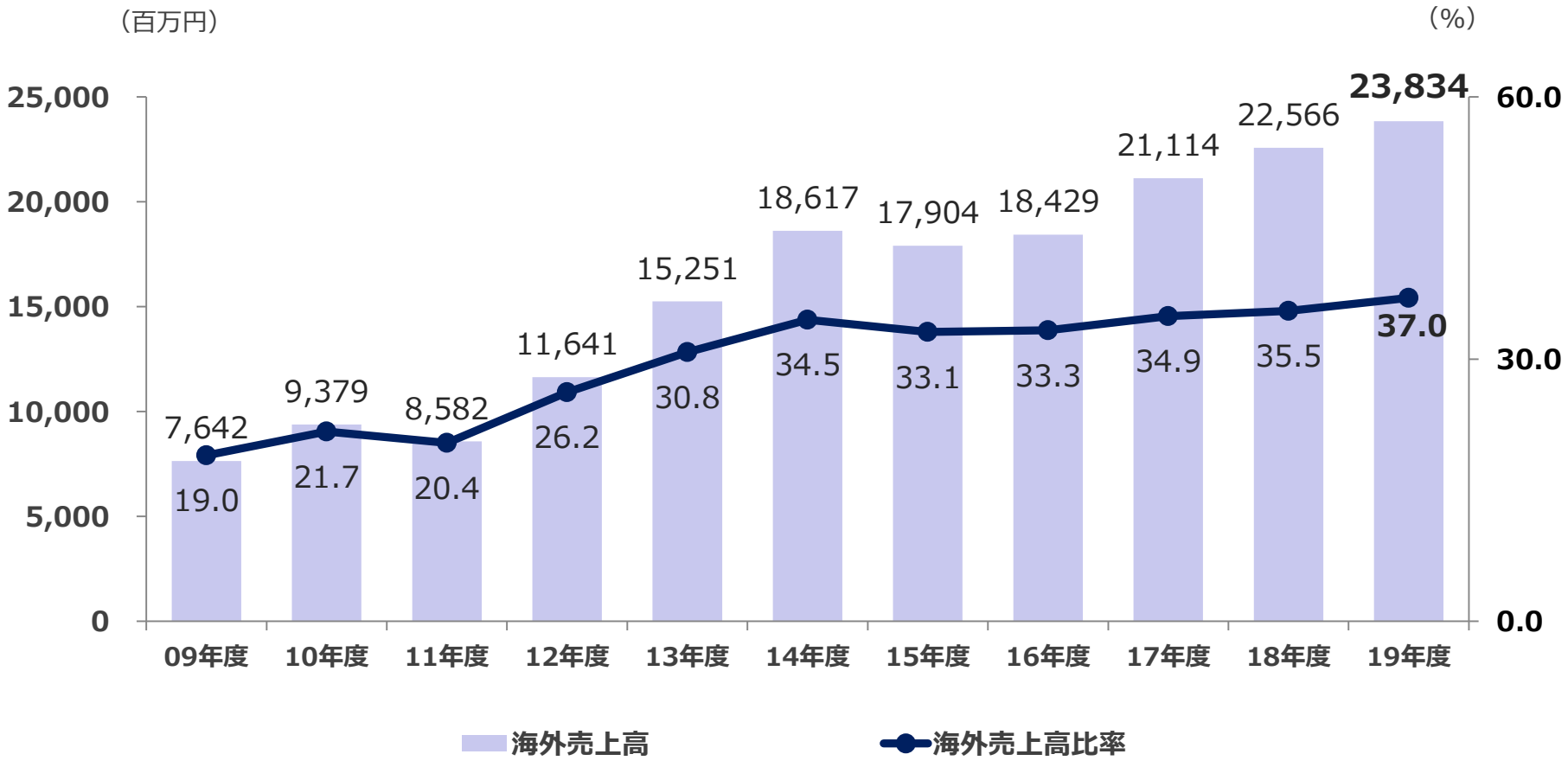
☞ **2024年ごろまで、成長の追い風となる**

*1 IDC Japan, 2019.6.18リリース「国内データセンター建設投資予測を発表」
*2 IDC Japan, 2020.3.18リリース「国内パブリッククラウドサービス市場予測を発表」

© 2020 Furukawa Battery

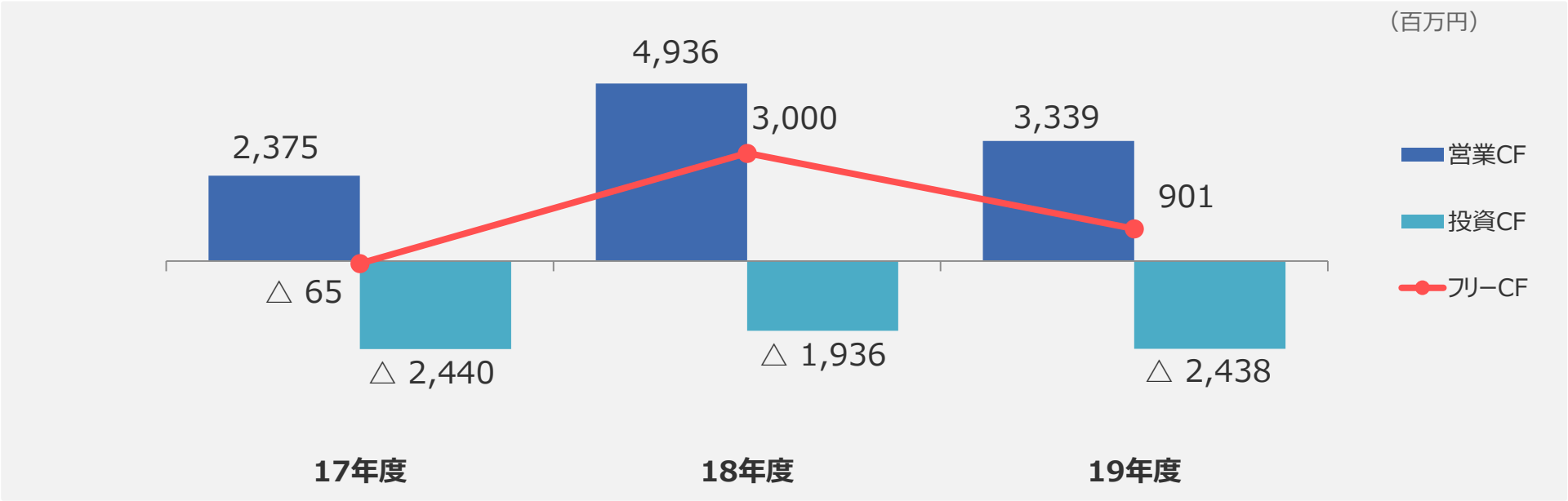
海外売上高

■ 19年度はタイSFCの好調に加え、インドネシアFIBMの売上増により前年度比で比率UP



© 2020 Furukawa Battery

キャッシュフローの状況



営業CF・投資CF

■ **営業CFの減少　（前年度比 △1,597）**

- 売上債権の増加　（同△1,346）
- たな卸資産の減少　（同+701）
- 仕入債務の減少　（同△1,277）

■ **投資CFの減少　（前年度比△502）**

- 有形固定資産の取得による支出　（同△1,072）
- 投資有価証券の売却による収入　（同＋345）

ポイント

■ **売上債権の増加や仕入債務の減少などに加え、日本・タイでの成長のための設備投資による有形固定資産の取得が増えたため、フリーキャッシュフローは前年度比△2,099百万円**

© 2020 Furukawa Battery

貸借対照表（2020.3末時点）

- 有形固定資産は、国内およびタイSFCの生産設備への投資に伴い5.9億円増加
- 固定負債は、長期借入金から（一年以内）短期借入金へ振替えられたことなどにより11億円減少。流動負債は、支払手形及び買掛金等の減少などにより約10億円減少

（百万円）

資産	19.3 末	20.3 末	増減額
流動資産	24,959	25,139	+180
現金及び預金等	4,968	4,295	△672
受取手形及び売掛金等	12,117	13,336	+1,218
たな卸資産	7,190	6,759	△430
固定資産	29,307	28,896	△411
有形固定資産	23,855	24,453	+598
無形固定資産	149	135	△14
投資その他の資産	5,302	4,307	△995
資産合計	54,266	54,035	△231

負債・純資産	19.3 末	20.3 末	増減額
流動負債	15,845	14,854	△990
支払手形及び買掛金等	6,728	6,059	△669
短期借入金	4,753	4,261	△491
固定負債	12,663	11,543	△1,120
長期借入金	3,788	2,467	△1,321
退職給付に係る負債	6,888	7,021	+132
純資産	25,758	27,637	+1,879
利益剰余金	20,969	22,847	+1,878
負債純資産合計	54,266	54,035	△231

© 2020 Furukawa Battery

02 20年度について

© 2020 Furukawa Battery

新型コロナウイルス感染症への当社の対応

- 感染拡大防止のための対応(手洗い・うがい・マスク着用を徹底、社内アルコール消毒等)を実施
- 在宅勤務・時差出勤・ITツールの活用等を組み合わせ、
  お客様や社員、地域コミュニティなどステークホルダーの安全確保および事業継続に注力

2020.2.19

- 展示会出展取りやめ
- 各種イベントの開催の中止・延期
- 一部説明会のWEB開催への切り替え
- 顧客訪問自粛

4.7

緊急事態宣言

2020.1.27

- 社内注意喚起開始
  (手洗い・マスク着用等)
- 一部地域への出張自粛

2.27

- 時差出勤
  開始

2.28

- 休校の子を持つ
  社員向けに
  臨時休暇制度導入

- 在宅勤務の推奨(間接部門)
- 事業所間移動の禁止
  (オンラインミーティングへの切替)

～5月末

- 社員へのマスク
  配付

© 2020 Furukawa Battery

新型コロナウイルス感染症拡大に伴うリスクと施策

リスク

- ✓ 従業員の感染による操業停止
- ✓ サプライチェーンの停滞
- ✓ 取引先企業の事業活動の停止や縮小等による売上の減少

施策

- ➢ 新基幹システム構築推進
- ➢ 働き方改革の推進
- ➢ ITツールの活用拡大
- ➢ 営業スタイル改革
- ➢ 競争力の高い商品開発の加速
- ➢ 外部発信力の強化

危機に強い会社となるための体質改善を強化

© 2020 Furukawa Battery

20年度の見通し_現時点で未定

- 20年度の業績予想は、新型コロナウィルス感染症拡大の影響を現時点では合理的に算定することが困難なため未定
- 今後、算定可能となった時点で速やかに公表予定

（百万円）

	19年度 実績			20年度 予想	増減額 (b-a)	増減率
	上期	下期	通期(a)	通期(b)		
売上高	29,367	35,118	64,486	未定		
営業利益	686	2,606	3,293			
経常利益	666	2,569	3,237			
親会社株主に帰属する当期純利益	575	1,663	2,238			
海外売上高比率	38.3%	36.0%	37.0%			

為替レート
・19年度（期末） 1バーツ=3.63円　100インドネシアルピア=0.79円

鉛建値
・19年度（平均） 275.6千円/t

© 2020 Furukawa Battery

配当の状況

- 19年度配当金は、前期比２円増配の１株につき13円の予定
- 20年度の配当金は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が現時点において合理的に算定することが困難なことから未定
- 連結業績予想の算定が可能となった時点で速やかに開示する予定

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度(予想)
ROE (%)	13.4	12.2	9.7	9.4	8.7	未定
1株当たり配当金 (円)	8.00	9.00	10.00	11.00	13.00	
配当金総額 (百万円)	262	295	327	360	426	
配当性向 (%)	11.1	12.4	15.3	15.9	19.0	

© 2020 Furukawa Battery

ガバナンス体制の強化

社外取締役比率[*1]の向上

取締役会の監督機能を強化するため、
2020年6月株主総会終結時点で
社内5：社外4[*2] に体制強化

■取締役会における社外取締役比率
（定時株主総会終結時点）

2000年	▶	2016年	▶	2020年
10.0%		25.0%		44.4%

*1　古河電気工業在籍の取締役含む
*2　うち1名は古河電気工業在籍者

任意委員会の設置

2020年3月24日付で任意の機関として
「利益相反管理委員会」および
「指名・報酬委員会」を設置

利益相反管理委員会

- 親会社である古河電気工業㈱と当社の間における取引内容の合理性等について、独立社外取締役が過半数を占める当委員会で検証・監督することにより、少数株主の利益のさらなる保護を図る

指名・報酬委員会

- 経営陣幹部および取締役候補者の指名および報酬について、独立社外取締役が過半数を占める当委員会で検討することで、その決定プロセスの独立性・客観性と説明責任の強化を図り、コーポレート・ガバナンス体制をより一層充実させる

➢ ESG経営に注力し、サステナブルな成長を目指す

© 2020 Furukawa Battery

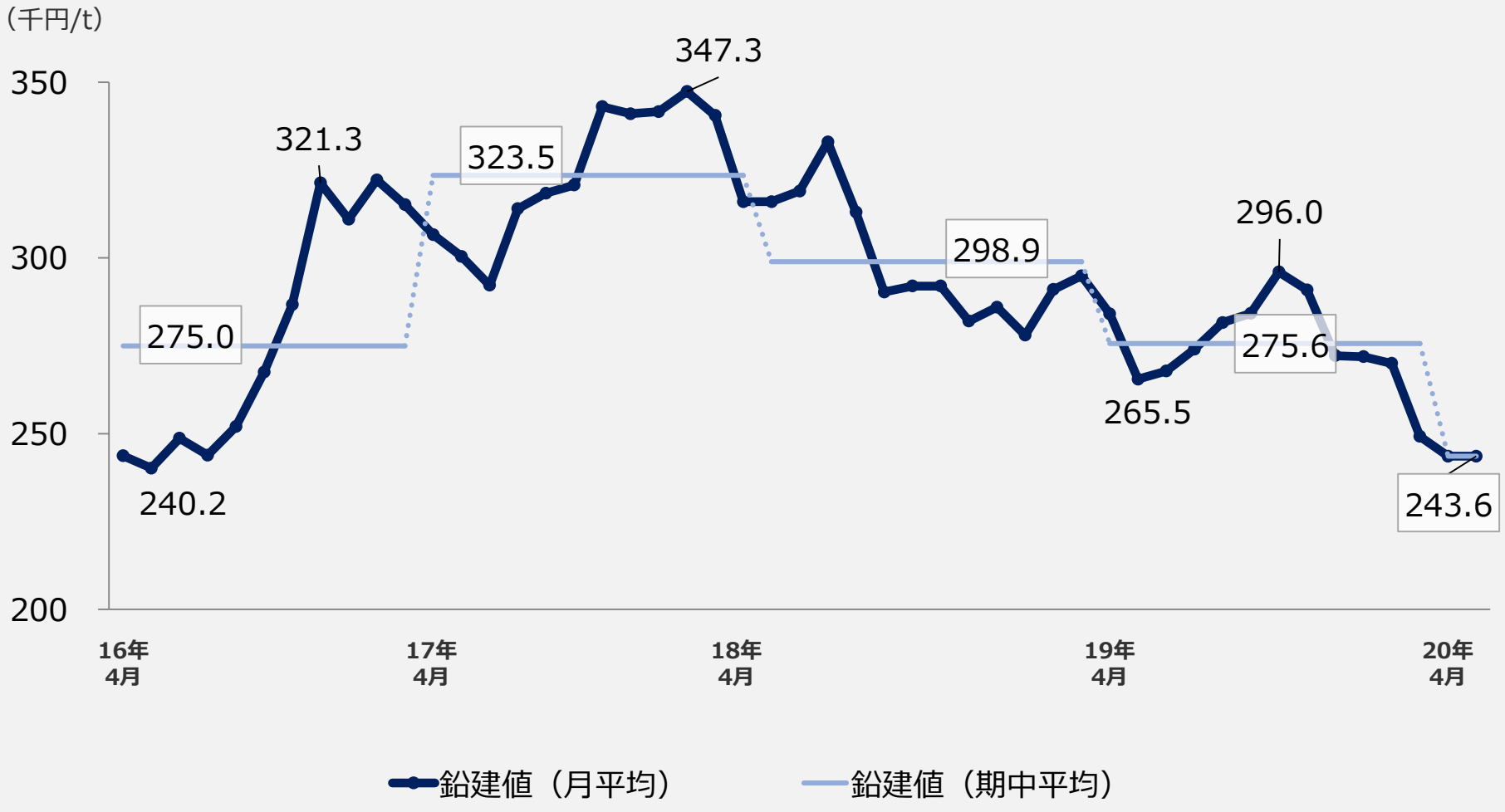
03 補足資料

© 2020 Furukawa Battery

鉛建値推移 (07~19年度)

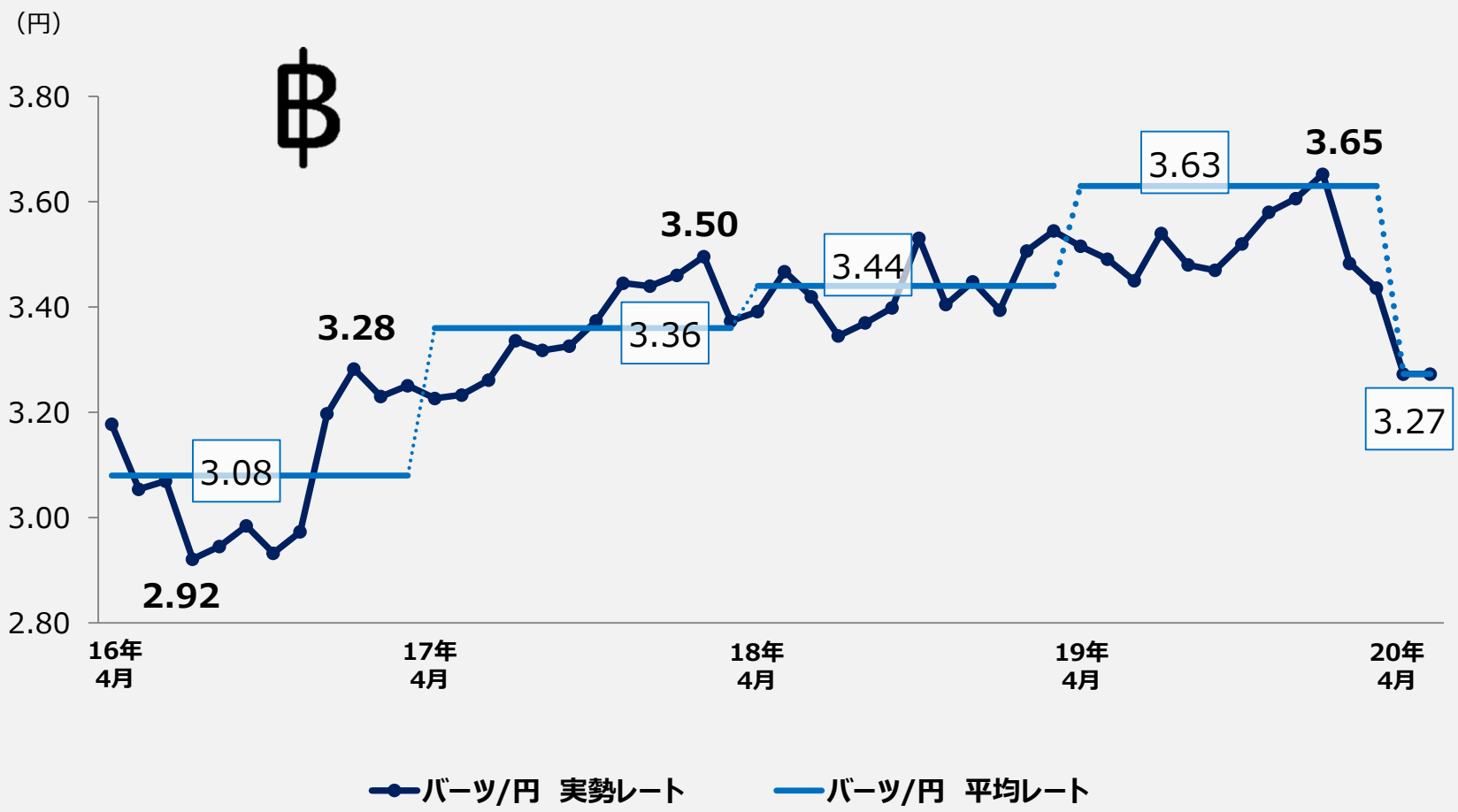
© 2020 Furukawa Battery

鉛建値推移 (16年4月~19年5月)



© 2020 Furukawa Battery

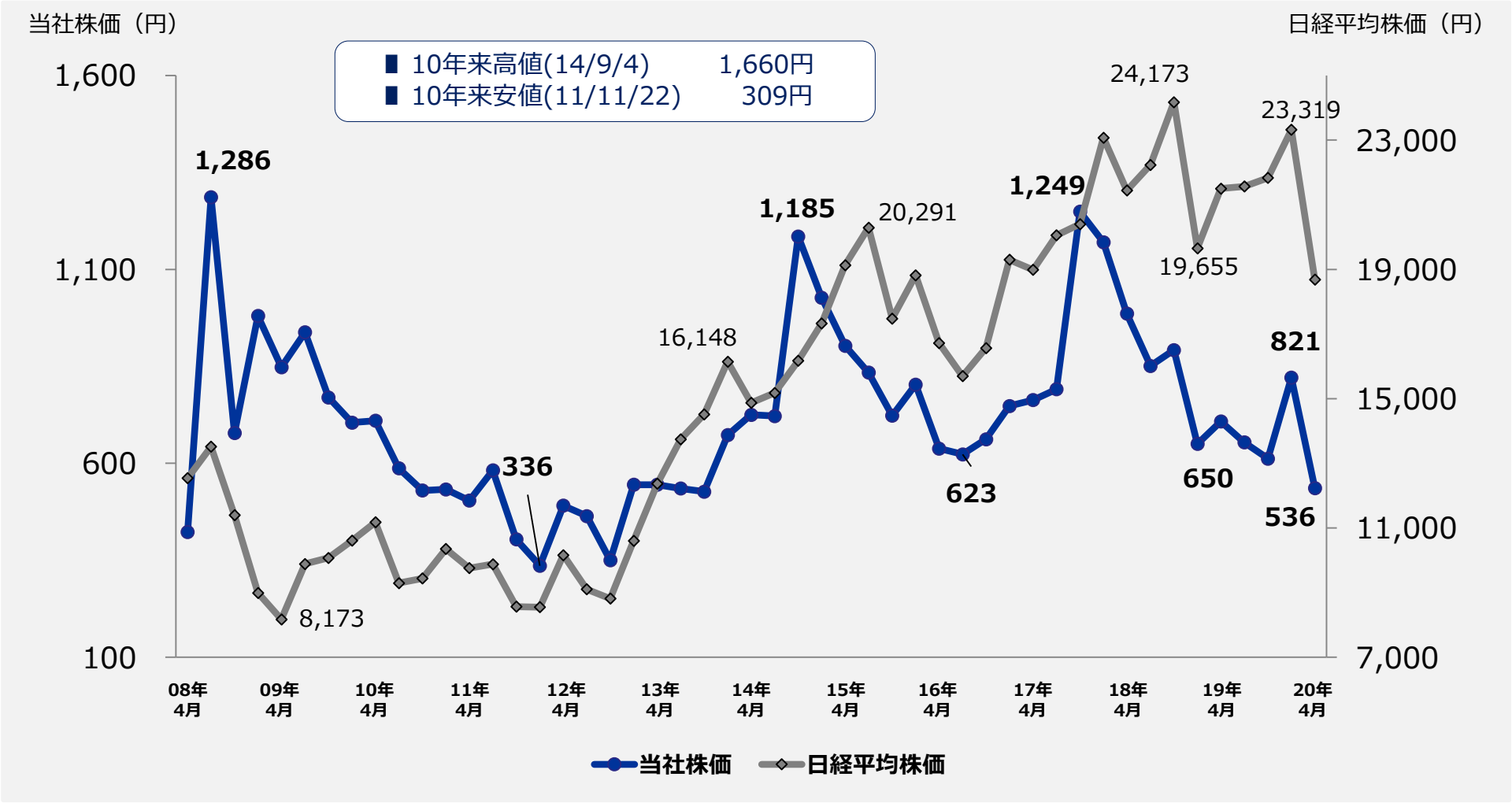
為替レートの推移



© 2020 Furukawa Battery

株価推移

■ 2017.10.1より単元株式数を1,000株から100株に変更



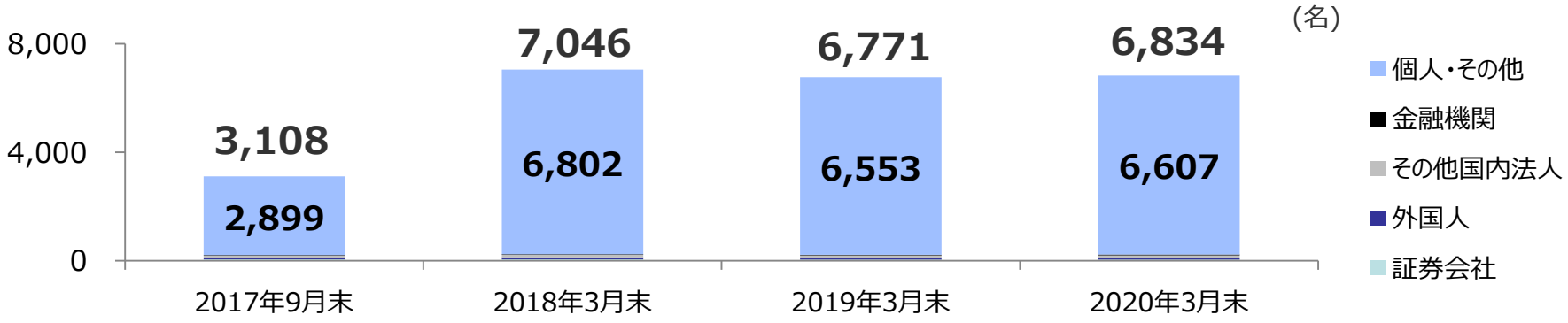
© 2020 Furukawa Battery

株式情報

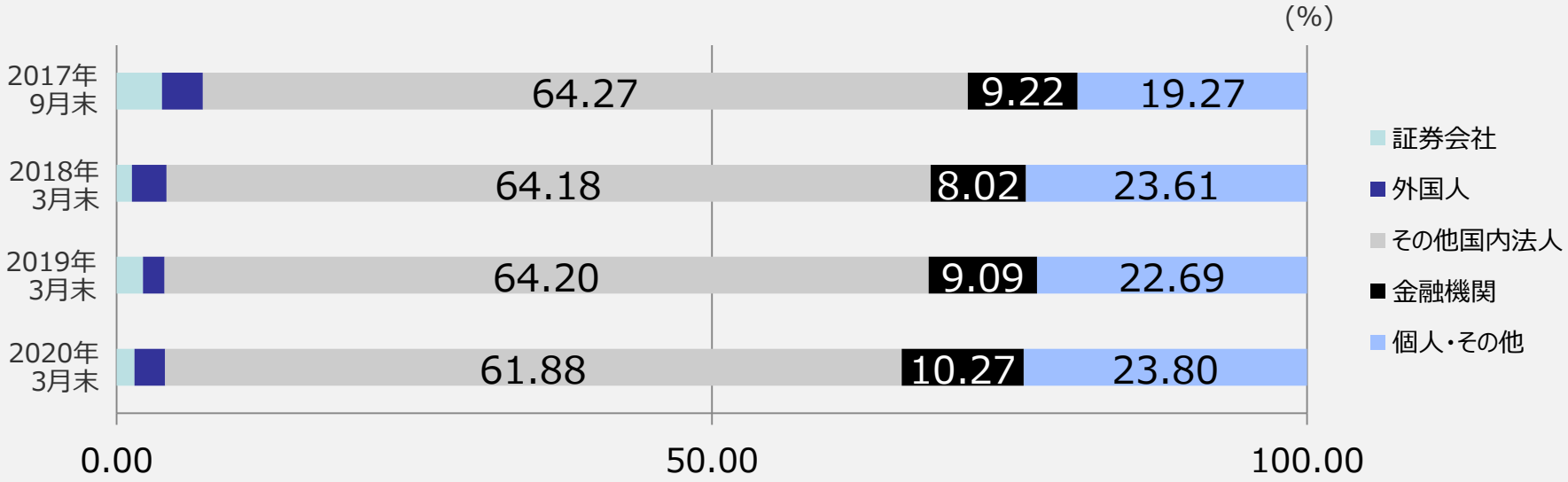
■ 株主数*

2017.10.1より単元株式数を1,000株から100株に変更

*自己名義株式除く



■ 所有者別持株比率*

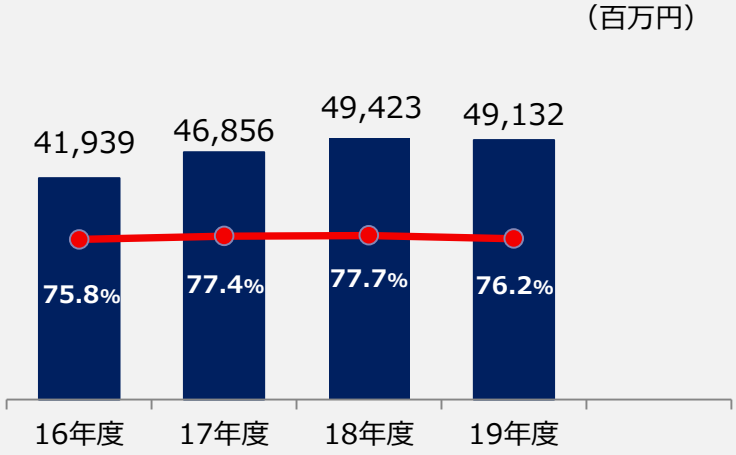


© 2020 Furukawa Battery

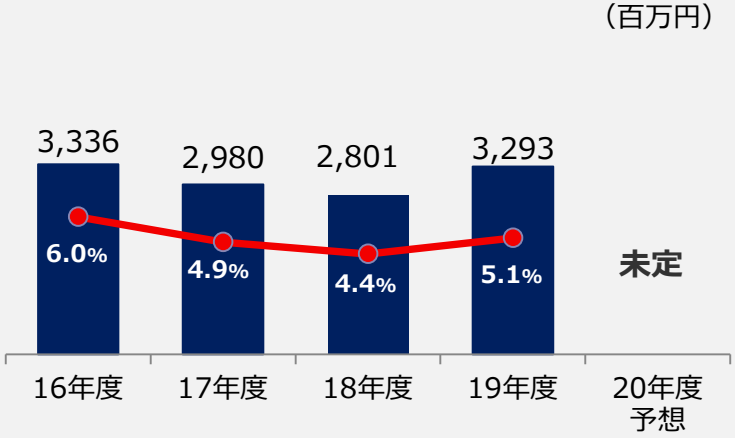
業績データ①

売上高

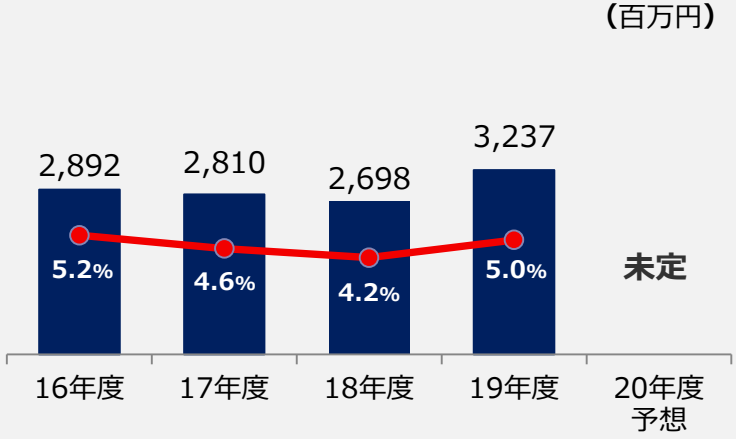
売上原価・売上原価率



営業利益・営業利益率



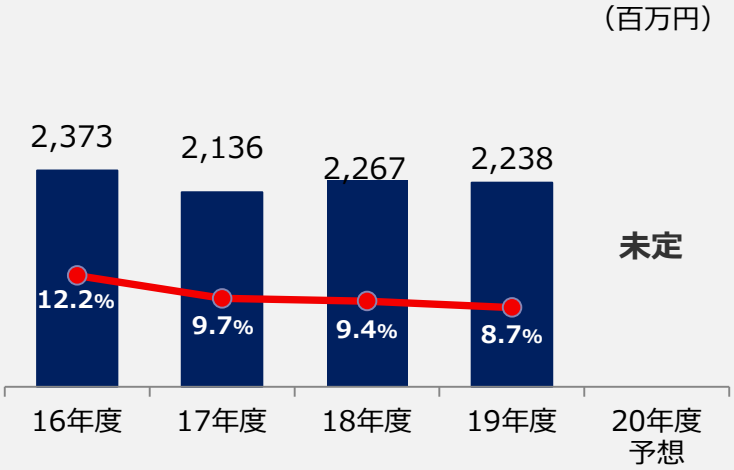
経常利益・経常利益率



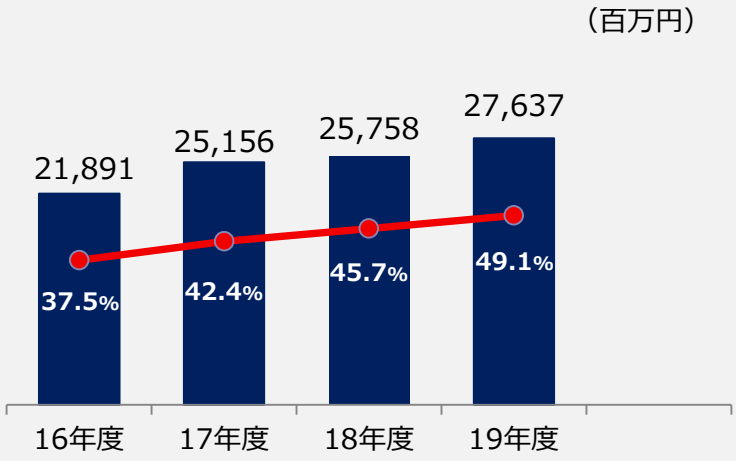
© 2020 Furukawa Battery

業績データ②

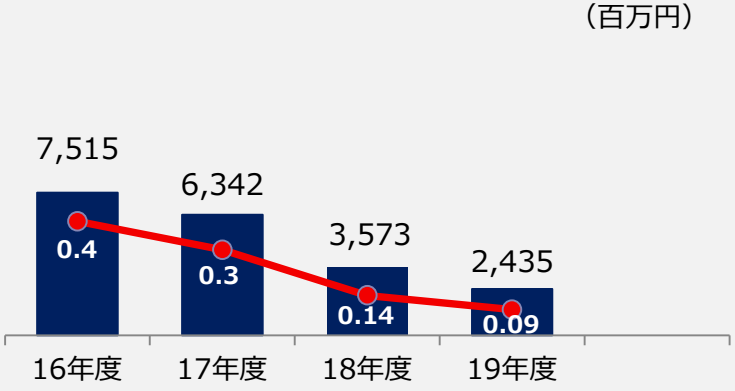
親会社株主に帰属する当期純利益・ROE



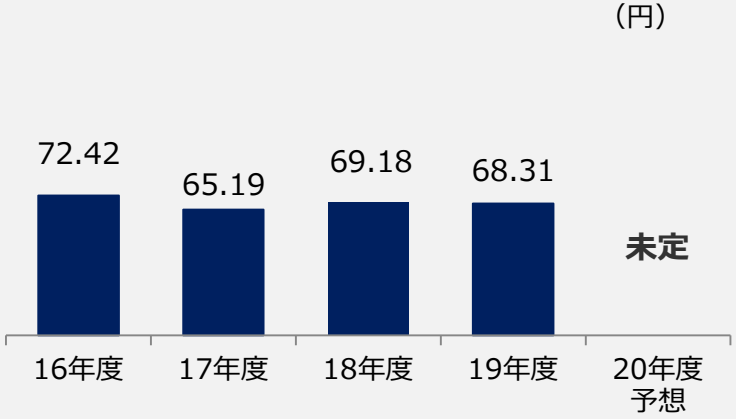
純資産・自己資本比率



ネット有利子負債・ネットD/Eレシオ



1株当たり当期純利益

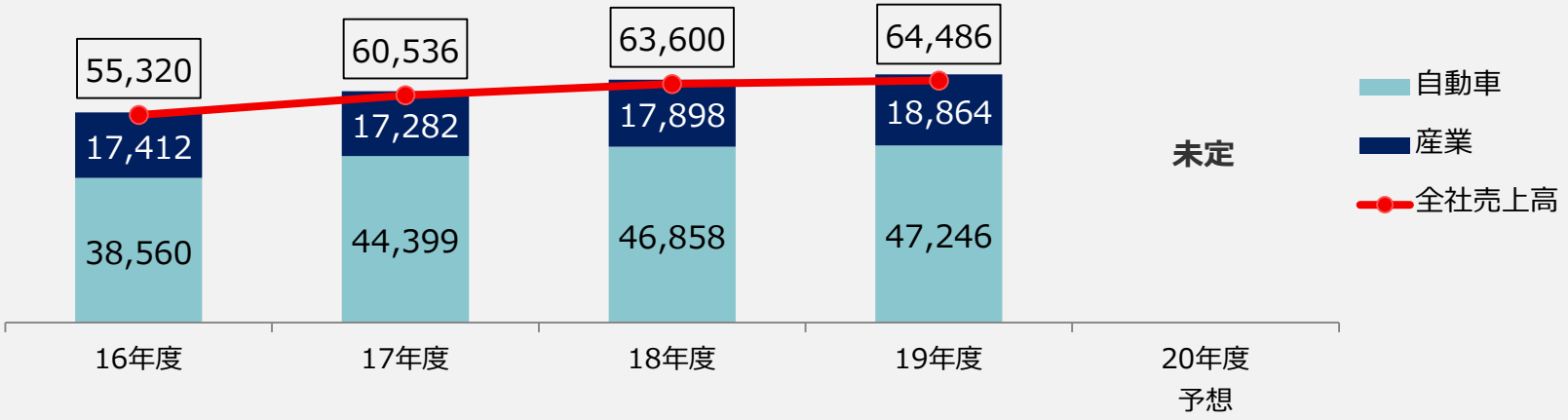


© 2020 Furukawa Battery

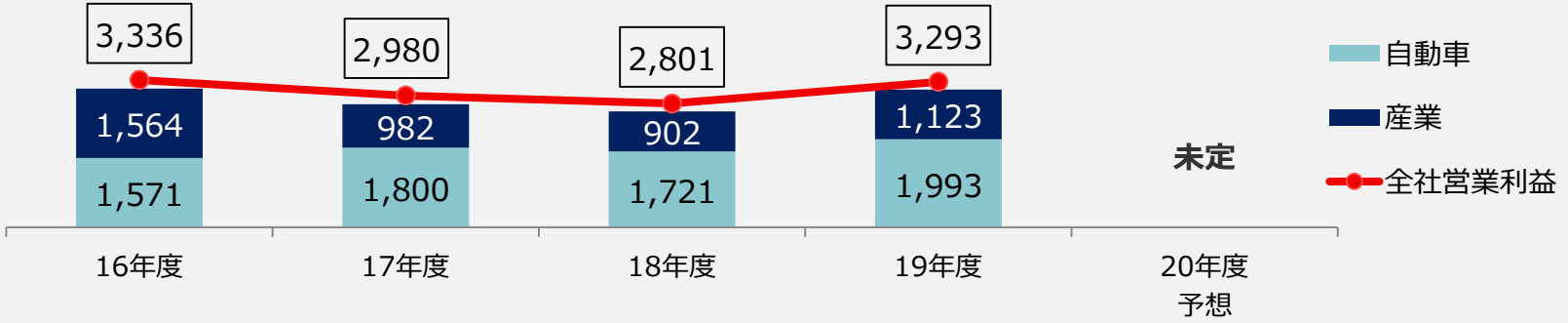
業績データ③

セグメント別 売上高の推移

（百万円）



セグメント利益の推移

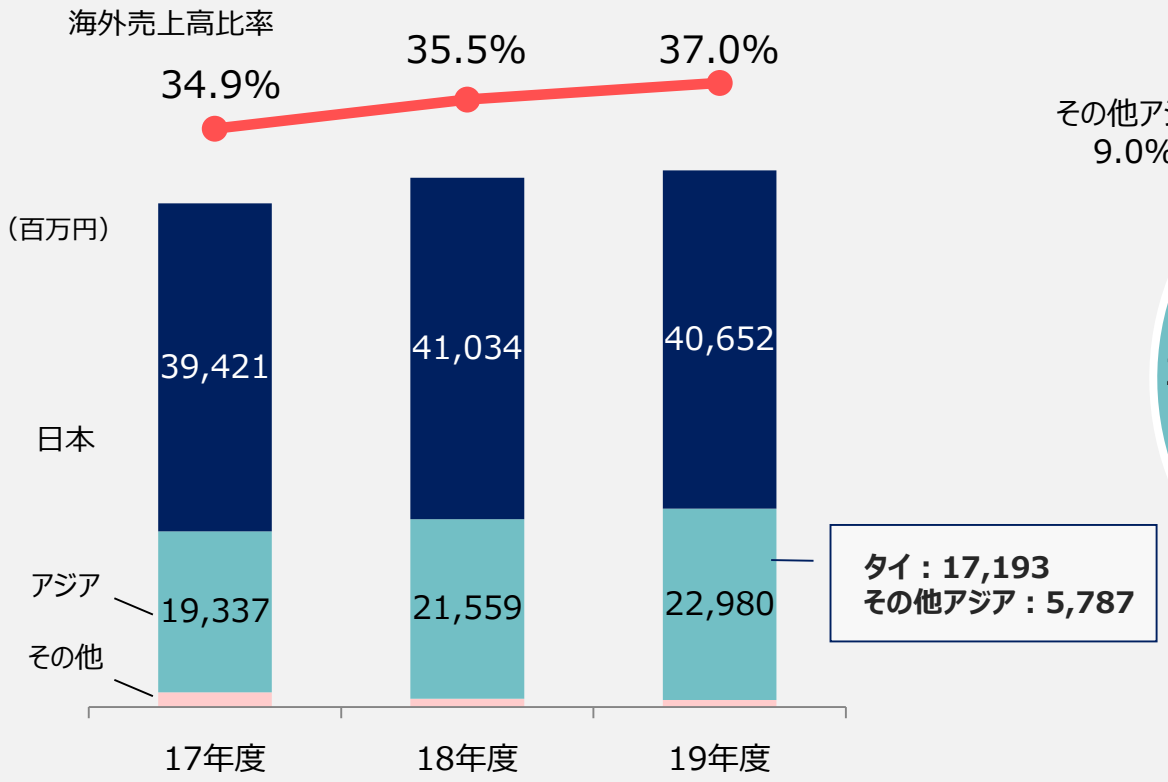


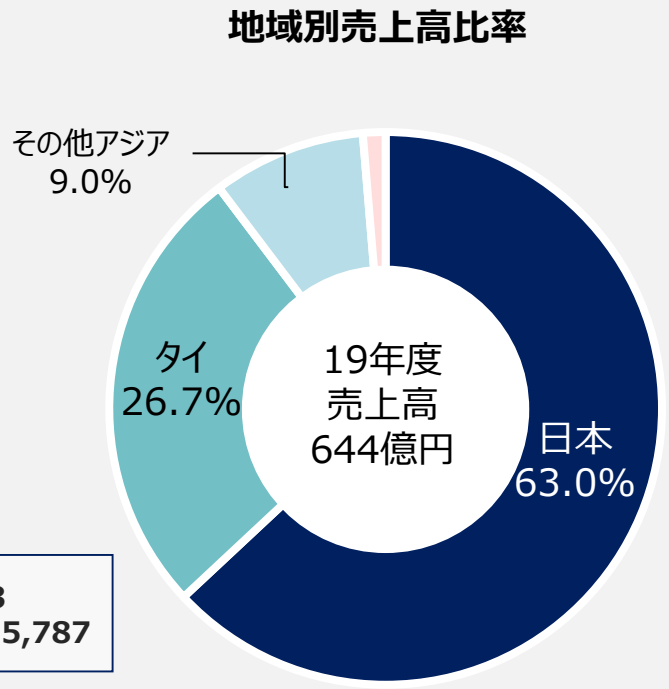
＊ セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高または振替高を含みます。
セグメント利益は営業利益（のれん償却前）ベースの数値です。

© 2020 Furukawa Battery

業績データ④

■ 地域別売上高





※ 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています

© 2020 Furukawa Battery

鉛蓄電池市場 グローバルシェア

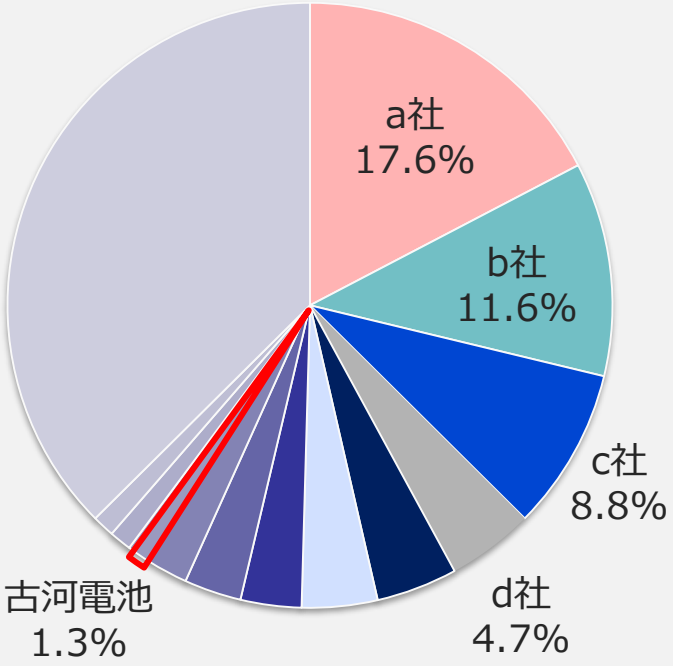
■ 生産金額ベース

（億円）

		2018年実績	シェア
1	A社	6,500	15.2 %
2	B社	3,400	8.0 %
3	C社	2,800	6.6 %
4	D社	2,500	5.9 %
5	E社	1,720	4.0 %
⋮		⋮	⋮
10	古河電池 FB	530	1.2 %
		⋮	⋮
	その他	16,272	38.2 %
	合計	42,640	100.0 %

■ 生産数量ベース

※ 2018年実績



＊ 出典：富士経済「2019 電池関連市場実態総調査 電池セル市場編」

© 2020 Furukawa Battery

将来情報についての注意事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しており、主要なものとして以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

・為替相場の変動による影響

・主要製品に使用される原材料の価格変動

・海外における政治的および社会的リスク

・取引先の業績悪化等

・大規模災害（地震や風水害などの自然災害、伝染病・感染症の流行）等の影響

なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。

（注）当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本会計基準」を採用しています。
年度表記について、19年度は2020年3月期、20年度は2021年3月期（以下同様）
を表しています。

© 2020 Furukawa Battery